

Vol. **149号**

2011(平成23)年
1月1日発行

Colony Tokyo コロニーとうきょう

コロニー 社会福祉法人 東京コロニー
〒165-0023
東京都中野区江原町 2-6-7
TEL 03-3952-6166
FAX 03-3952-6664
<http://www.tocolo.or.jp/>
(法人本部 事務局)



アートビリティギャラリー 25 作者 戸苅 宏二さん 『ふくろう』(詳しくは15頁をご覧ください。)

時評

2010年度 上半期総括事業報告書

とびっくす

法人の主な動きから

法人本部・コロニー中野・アートビリティ・トーコロ生活支援センター・IT事業本部・デジタルメディアセンター・トーコロ情報処理センター・職能開発室(〒165-0023 中野区江原町2-6-7) 中野区精神障害者社会復帰センター(〒164-0001 中野区中野5-68-7) トーコロ情報処理センター事業部(〒162-0051 新宿区西早稲田2-2-8)・葛飾福祉工場(〒125-0042 葛飾区金町2-8-20)・立石工場(〒124-0012 葛飾区立石8-50-1)・コロニー東村山(〒189-0001 東村山市秋津町2-22-9)・大田福祉工場(〒143-0015 大田区大森西2-22-26)・城南島工場(〒143-0002 大田区城南島4-3-9)・トーコロ青葉ワークセンター・トーコロ青葉第三ワークセンター(〒189-0002 東村山市青葉町2-39-10)・国分寺戸倉寮(〒185-0003 国分寺市戸倉1-21-9)・東久留米第一氷川台寮・東久留米第二氷川台寮(〒203-0004 東久留米市氷川台2-31-22) 東久留米第三氷川台寮(〒203-0003 東久留米市神宝町2-14-26)・えはらハイツⅠ、Ⅱ・中野江原短期入所(〒165-0023 中野区江原町3-23-2)

時 評

「60 周年日の年に」

理事長 勝又 和夫
かつまた かず お

1. はじめに

1951（昭和26）年10月1日が、当法人の事業の始まりとした日であり、本年はその60周年目の年に当たります。当法人としてはこの日を起点として法人認可後に20周年、30周年、40周年、50周年と10年毎の大規模な周年記念事業を行ってきましたが、60周年については昨今のわが国の経済・財政の厳しい中では大規模な周年記念事業は控えさせていただくこととし、むしろ年間を通してご支援・ご協力を賜った多くの皆様に感謝の意を日常的に表せる取り組みとすることになりました。皆様の支えがあったの60年だと先ずもってお礼申し上げます。

また、昨年11月28日からは評議員、理事、監事、苦情解決第三委員とも新たな方にも加わっていただき、新体制でのスタートを切っています。私が理事長職

を仰せつかって10年目の年でもありますが、この間では法人立事業の経営の抜本的な見直しや財政の健全化等、当法人に所属

する皆さんには大きな苦労をお掛けしたと思っていますが、お陰様で当初の目標を1年短縮して達成し、本年度より攻めの経営に転じて新年を迎えております。この9ヵ月間では東京都や区からの委託事業について、来年度及び再来年度より当法人の完全な責任において運営する見込みが固まってきたおり、その他にも国、都、区市等の研究事業や単独事業等の受託も増える中で、障害者自立支援法による新体系事業への期限内での完全移行や法人の総力としての一般企業への就職支援により、この3年間に限っても120名を超える方々の就職と職場定着の支援が行えております。新体制においても、より一層法人としてのスケールメリットや東京都内20カ所以上の事業拠点を生かし、

障害のある人の「働く」、「暮す」ことを応援していきたいと考えております。

2. 障がい者制度 改革の動き

一昨年の政権交代によって、障害者自立支援法の廃止の明言と障がい者制度改革推進本部（総理大臣が本部長）の下に「障がい者制度改革推進会議」や「総合福祉部会」などの精力的な活動によって、本年1月下旬の通常国会では障害者基本法改正案の審議や本年中の同会議によって、総合福祉法等が来年の通常国会に上程されるとの声も聞かれるようになっていきます。

当法人としては、国の制度がどのような方向になるうとも初代理事長の野村実先生の「当事者が望むならば取って法律を超えてでも、その願いに応える」とする気概をもって、法そのものはいずれの法であったとしても

尊重しつつも、障害のある人たちのニーズを第一に事業運営を行うべきと考えており、障害者制度改革を待つのではなく、そのことには関わりつつもその先に目標を置いて法人運営に当たる覚悟でいます。

3. 法人の現在と今後

本年度の中間決算では多くの皆様のご支援により、厳しい経済情勢の中でも前年同期の剰余金計上と運営面においても一般就職者数の増等、別稿でご報告する事業結果となっております。特に当法人の現状において前年度との大きな違いは昨年度までの事業運営が事業所または事業本部単位に重きが置かれていたことに比べ、法人全体としてより一体的な運営に比重が移ってきたことにあります。いくつかの例では、①防災・安全用品販売事業の他部門への拡大、②LE

D照明の導入やコンピューターシステムの新規統合への取組み、新規事業のPT発足等の決定など矢継ぎ早に新たな社会環境に向けた動きを加速させています。

前年末から本格的に取り組み始めた国立の最も有名な大学との障害者雇用での連携は本年3月までにはさらに深化を予定しており、この連携をさらに発展させるために社会福祉法人と大学が連携することで民間企業への参加のアプローチの機会になればと先進的に取組むことを予定しています。また、この2年間に亘って社団法人東京都共同住宅協会様主催の「福祉住宅（障がい者施設）等の安定供給に関する実務研究会」に参加してきましたが、この2年間の研究結果を実際の成果とする年を迎えています。研究会には厚生労働省、東京都、身体・知的・精神障害者関係者、設計技師等も参加し、民間の賃貸住宅をいかに障害のある人たちの生活の場と

できるかを研究してきたものであり、昨年には3回に亘って東京都議会の会議室をお借りし、家主を主な対象とするセミナーも開催してきており、いずれの回も満員盛況な状況でした。当法人にとつては「働く場の提供」だけではなく、そのための「安定した暮しの場」の必要を痛感しており、公営住宅に関しては政府も積極的な取り組みを行っています。民間住宅については家主さんの理解を得ることの重要性を認識しての参加であり、東京におけるモデルづくりとそのことの全国展開を国会議員の先生のお力もお借りし、成果を挙げていきたいと考えております。

4. 多くの仲間と共に

新年であることもあってやや筆が走り過ぎているかもしれませんが、当法人の歴史的な言葉でもある「人間回復の砦」として

の当事者主体・企業性・民間性の下に当法人に籍を置く人たちだけではなく、アートビリティ事業やエスチームに登録いただいている方、さらには東京都障害者IT地域支援センターや東村山市就労支援室をご利用いただいている方など千数百人の皆様と共に、この60周年の年になりの5年、10年、20年の確かな道筋をつけたと考えています。

いずれにしても多くの仲間が核となり、その核の周りに輪ができてくるはずですので、改めて核となる皆様の力の結集をお願いするとともに、当法人の今後に向けての関係者の皆様のご支援・ご理解を切にお願いし、年頭のあいさつとさせていただきます。すべての人の幸多き一年を切に願っております。



2010年度 上半期総括事業報告書

1. はじめに

2006年4月に施行された「障害者自立支援法」は2013年8月までには廃止されることが明言されており、それに代わる新たな制度の検討が急ピッチでなされています。この法によって、利用者、家族、事業者共に利用者負担の増や事業者の公費減など苦しい状態に置かれていることについて、法の廃止や新法の骨格を見極めることは重要ではありますが、上半期の事業においてはどのような法体系になろうとも、法人の歴史的な経緯の再確認の中から、法を先を行く自らの努力の必要性を再確認しつつある状況にあります。なお、一昨年9月の米国発金融パニックの崩壊に始まる実体経済への影響は、まだまだ底の見えないものとしてさらに経済状況の厳しさ

は増す状況の中にあります。本年度の法人経営においても一層の努力が求められていましたが、このような中でも事業の一層の多角化等によりその影響を受けない努力を図りつつあります。また、上半期末での在籍者数は前年末より9名増の664名であり、その他に9月末での登録・契約者を加えると1200名を超える人たちを対象とする事業状況です。

2. 2010年度の運営方針

の進捗状況

本年度は、左記の5点を重点課題とした上で諸制度に則した運営を行いつつ、障害のある人たちの立場に立った経営に引き続き努力しました。

(1) 経済状況の厳しさが予測された中でも、既存の顧客の満足

度を高める努力や新規事業導入等により受注額の減少を可能な限り食い止めるよう努力しています。

(2) 障害者自立支援法に基づく新体系事業について、定員等の見直しを行うなど利用者のニーズを第一に、可能な限り受入増を図るための運営に努めています。また、次年度に向けて生産型生活介護事業の開始について検討に入りました。

(3) 旧体系のままとなっている施設（福祉工場、精神障害者通所授産施設）については、関係者等との協議を本格化させ、当法人としての方向性を定めるとともに、本年度中には時期及び内容が決定できる見込みです。また、地元自治体からの事業受託等について

は引き続き真摯に取り組んでいきます。

(4) 法人立事業の借入金圧縮に引き続き努力し、経営基盤の安定に一定の目処をつけました。

(5) 近い将来を視野に若手や基幹要員の育成に努めるために、その具体策の検討に入っています。

3. 各事業の状況

法人本部及び各事業本部、各事業所の詳細については別途の報告書において記述していますが、概略としては以下のような主要課題と方針の下に取り組んでいます。

(1) 法人本部 専務・常務理事のかかわりを強めるとともに事務局体制と常務会（事業本部長会）を中心とする機能の強

化に努めています。

(2)福祉事業本部 各事業の利用者合計が30名以上であるため、各事業毎に責任を持った運営ができるように従業員の役割認識を高め、各寮等の運営の安定化を図りつつあります。なお、ヘルパー派遣の利用契約者は43名となっています。

(3)IT事業本部 次世代を担う人材育成に力を入れるとともに、都や市からの受託事業の継続と本年度としては各事業での赤字を出さない経営維持を図れる見込みです。なお、上半期のS O H Oチームの登録者は13名、職業紹介での登録者は35名、IT支援センターでの受講自治体は45区市であり、510件の相談と450名の来場者がありました。

(4)社会就労事業本部 事業本部全体としては、就労移行事業の事業実績の評価を行うと共に、今後の就労移行事業、就労継続B型事業及びA型事業

の定員倍増等の見直しに加え、生産型生活介護事業の開始の検討に入りました。また、

精神障害者通所授産施設についての在り方では区受託事業は新体系での指定管理者となるべく応募手続き中であり、独自施設については来年度下半期から新体系への移行を図るべく検討に入っています。4つの事業のトータルとして4名のトライアル雇用中の者や施設利用と一般就労との組合せで所属するものが2名おり、就労継続A（雇用）型へは6名が上半期中に移行しました。

・コロニー中野 新規事業の取り組みを含め地元自治体・事業者との関係強化により経営体質の強化を図りつつあります。

・中野区精神障害者社会復帰センター 当法人が受託した意味を明確に示せるよう新体系での指定管理者となるべく応募手続き中です。

・コロニー東村山 印刷事業の

業界が益々厳しい状況となりつつある中で、法人内での協力関係の強化も視野に大胆な工夫などにより、可能な限り

剰余金を出す努力をしつつあります。なお、東村山市就労支援室事業においては、86名の登録者とともに、上半期だけで8名の一般就職を達成させました。また、アートビリティでは389名の作家の3781点の作品の登録となっています。

・青葉ワークセンター 第三ワークセンターの新体系移行について検討すると共に、新規事業の取り込みについて検討・実施しつつあります。

(5)福祉工場事業本部 東京都との民間化問題に関する協議等を本格化させると共に、事業的には必要な対応を図りつつあります。

・葛飾福祉工場 売上の減少を最少限にとどめると共に、赤字部門の経営改善に取り組み、併せて障害者雇用への努力と配置についての工夫を行

うことで努力中です。

・大田福祉工場 受注活動や効率化等に鋭意努力すると共に、5月には城南島工場への移転を図り、民間化に向けての経営の在り方の検討を開始しています。

4. その他

法人全体として以上の事業の他、「障害者自立支援法の評価できる面での法が求める範囲を超える実績を残すこと」や「苦情解決事業」、「利用者主体の運営」等により、利用者支援の質的向上に加え、障害のある人たちが当法人の主人公であることへの非障害者の意識改革に本格的に取り組んでいます。

また、福祉改革に対応するための関係機関への取り組みと併せて、日本障害者協議会、社団法人ゼンコロ、全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会等各種関係団体・機関における当法人としての役割を本年度も果たしつつあります。

表 1. 在籍者の推移

自 2010 年 4 月 1 日 至 2010 年 9 月 30 日

(単位：人)

		前年度末 在籍者数	期中増減				上半期末 在籍者数
			増員		減員		
障害がある就労者等 (計)	雇 用 就 労 者	107	8	(6)	8	(0)	107
		(9)	(6)	(6)	(0)	(0)	(15)
	事業・施設の利用者	230	22	(3)	15	(9)	237
	そ の 他	41	6	(0)	5	(0)	42
	障害がある就労者等 (計)	378	36	(9)	28	(9)	386
		(9)	(6)	(6)	(0)	(0)	(15)
障 害 が な い 就 労 者		277	12	(2)	11	(2)	278
合 計		655	48	(11)	39	(11)	664
		(9)	(6)	(6)	(0)	(0)	(15)

(注) 1) A型利用者については、障害がある雇用就労者に含めた上で下段の()で再掲しています。

2) 年度末在籍者数には非常勤嘱託医を含んでいます。

3) 年度末在籍者数にはグループホーム・ケアホーム利用者を含んでいます。

4) 増減実数の()内人数は法人内異動者です。

参考資料：「在籍者の推移」に含まれない人員状況

上半期末及び上半期中人数

(単位：人)

	登録・契約障害者	一般就職者等	トライアル雇用者等	一般就職サポート者
福祉事業本部	43	—	—	—
I T 事業本部	48	*1 9	—	—
社会就労事業本部	—	*2 9	6	—
東村山市就労支援室	86	8	—	—
	アートビリティ	389	—	—
計	566	26	6	*3 121

*1 I T 事業本部、職能開発室 在宅雇用 4 人、職業紹介 5 人

*2 社会就労事業本部、コロニー中野しごと財団修了者で一般雇用 3 人、A 型雇用 6 人

*3 事業本部、事業所を超えて全体でサポート（当法人からの 2007.4～2010.9 までの一般就職者）

上半期末貸借対照表（簡易版）

2010（平成 22 年）9 月 30 日現在

(単位：円)

	前年度決算	本年度中間決算	増減		前年度決算	本年度中間決算	増減
現金預金	2,856,935,066	2,677,672,321	△ 179,262,745	買掛債務	1,032,414,272	635,105,134	△ 397,309,138
売掛債権	1,281,217,375	1,012,967,411	△ 268,249,964	借入金	1,029,983,000	1,012,767,000	△ 17,216,000
その他	3,352,361,684	3,361,485,612	9,123,928	その他	1,415,760,145	1,362,524,359	△ 53,235,786
				純資産	4,012,336,708 * (71.2%)	4,041,728,851 * (66.3%)	29,392,143
合計	7,490,514,125	7,052,125,344	△ 438,388,781	合計	7,490,494,125	7,052,125,344	△ 438,368,781

*純資産に占める現金預金の比率

とぴくす

T O P I C S

コロニー中野

「生フルーツゼリー」の販売

ホットドッグの店『ころ・ころ』では5月下旬より「生フルーツゼリー」の販売を開始しました。

発売以来お客様に大変な人気で、多い時には一日30個近く売れることもあり今では当店のNo.1スイーツになっています。

発売のきっかけは毎年行われている中野の逸品グランプリで、今年「生フルーツゼリー」で最優秀逸品賞を受賞された鷺宮のフルーツパーラー「サンフルール」のシェフ平野泰三さんとの出会いです。平野さんは世界のカリスマフルーツカッター賞の称号を持つフルーツカッター界の第一人者でもあります。



また、平野さんは障害者福祉にも熱心で障害者の自立支援に貢献したいと考えておられ

たそうです。

中野の逸品グランプリを受賞したことによってこのゼリーを障害者施設で作り、販売できないだろうか。そ

して、そこで働く障害者の職域の拡大、販売による収益増加で障害者の工賃アップに少しでもつながればという思いがあったそうです。また、ご自分のお店のを他の地域の方々にも提供したいとも思っていたそうです。

そんな時、中野区逸品グランプリの担当でもある中野区産業振興課の職員から『ころ・ころ』を紹介されたそうです。

井上所長との話し合いで「生フルーツゼリー」のレシピを提供し、技術指導も無償で行っていただけることになりました。そして、5月下旬に第一回目の講習が行われ、フルーツのカットの仕方、材料の配分、保存方法等細かくご指導いただきました。さらに、ポスター等も貸して



いただき宣伝にも大いに役立っています。フルーツは季節によって変わります。先日もご自分のお店が休みの日にわざわざ来てくださり、秋から冬にかけておいしくなる洋梨や柿、いちご等のカットの仕方を教えていただきました。

このゼリーは生のフルーツをそのままゼリーにしたものでフルーツそのものの味を活かすためゼリー自体にはあまり味はありません。フルーツ本来の甘み、酸味を味わっていたいただける今までにない食感のゼリーです。

お客様の評判も上々で「とてもおいしい」という声をたくさんいただいています。お客様によつては一人で数多くお買い求めになる方もいらっしゃいます。また「あのゼリーがここで買えるようになってうれしい」と言ってくださるお客様もいます。今、『ころ・ころ』では週に二回、火曜日と木曜日にこのゼリーを作っています。今はまだ慣れてないせいもあって二名が専属で作っています。が、これからは何らかの形でもっと多くの利用者の皆さんが関わられるようにしたいと思っています。そして、将来的には区役所での販売も考えています。

みなさんもぜひ一度「生フルーツ

ゼリー」を味わってみてください。
ホットドッグの店『ころ・ころ』

堀越 和夫

スマイル

「有意義な1日」

11月10日、今の季節にしては暑いぐらいの陽気の中、中野区内の作業所交流会が行われました。8月から各作業所のメンバー・職員が協力して準備を行いやっと迎えた本番。担当として当日朝からずっと緊張していました。

開会式ではスマイルの担当メンバーが開会の言葉を述べ、午前の部・ソフトバレーボールが始まりました。「皆あんまり練習に参加しなかったからなあ」という不安は裏切られました。勿論良い意味で。実習生も交えたチームで、皆で協力し合い着実に点数を入れていく姿には、涙すら出そうになりました。交代要員の不足で試合に出ずっぱりのメンバー達は、辛そうな表情を見せながらも最後まで本当に一生懸命戦っていました。試合に出られないメンバーは応援したり得点係として参加し、皆が頑張っていました。結果こ



そ3位だったものの、大げさではなく言葉では言い表せない程の感動をもらいました。1時間の昼休み中には、他作業所メンバーとの間でソフトバレーボールに関する様々な感想が飛び交っていました。皆思い思いのことを口にしていましたが、この年に1度の交流会を楽しみにしているという共通の気持ちはものすごく伝わってきました。

午後からは3種類のレクリエーションを行いました。1つ目のスプリンレースは午前と同じく作業所対抗戦で行い、僅差で優勝こそ逃したものの、1度もボールを落とさなかったのはスマイルだけだったことが誇らしかったです。ドリブルリ

レーとじゃんけん列車は全員参加で大いに盛り上がりました。特にじゃんけん列車では実際自分も参加して、仕事であることも忘れ終始笑ってしまふほどでした。

最初は右も左も解らず打ち合わせに参加し、内心「交流会なんて意味あるのかなあ」とさえ思っていました。だが、少なくとも自分にとっては非常に楽しく有意義な1日でした。一緒に参加した総勢105名、特にスマイルのメンバー達もそう思ってくれていることを切に願います。

中野区精神障害者社会復帰センター

木下 結貴

コロニー東村山

新しい風

今年のコロニー祭

今年のコロニー祭はいつもとは違うものにしよう。新しい風を吹き込ませたい。黒木実行委員長の頭の中では6月から構想を練っていました。30回目の記念で節目ということもあり、今までのコロニー祭とは何かを変えたい気持ちは私も同じ気持ちでした。芸能人を呼んで、盛り上げたい：おそろいのTシャツを着

て、お客様を迎えたい…。実行委員会や部課長会の場で、実行委員長の口からこれらの話が出ると、ことが進み始める。芸能事務所にも問い合わせしてみました。しかし、日程やギャラの都合で実現はしませんでした。おそろいのTシャツは所長も即OKを出し、実行。どんなものか？

祭り当日のみんなの姿を見ていただければわかるのとおり。4色のTシャツに同じデザインでお客



様をもてなすことができました。

毎年恒例のナイスハートバザールにも多くの施設に参加していただき、にぎわいました。猛暑が続く9月の開催に合わせ、売り物を変更していたところもあり、飲食売り場は完売状態のところも多かったです。今年は葛飾工場からの防災用品の寄付もあり、模擬店で取り扱わせていただきました。模擬店にも新しい風が吹いていました。

舞台では、車椅子の方の司会でオープニングセレモニーを行い、コロニー関係者によるバンド演奏やライブ活動も行っているブラウンコーストの演奏、コロニー羞恥心を歌って踊ってくれた若い利用者の3人組、民謡の披露もありました。お客様の拍手をもらいたいへん盛り上がりしました。身体障害者の施設として始まったコロニー東村山。現在では障害種別によらないサービスを提供し、知的障害者の利用者が多くなってきましたが、これも新しい風です。舞台での様子を見て、コロニー東村山の歴史を振り返りつつ新しい風を感じた方も多かったと思います。

猛暑の中、来場していただいたお客様の数も昨年の倍、模擬店の売り上げも上々？大盛況で後夜祭を迎

え、コロニー東村山一同、乾杯をして暑い暑い1日を終わりました。来年はどんな風が吹くのだろう…。

コロニー東村山

コロニー祭り実行委員
岩崎洋子

青葉ワークセンター

就労支援係の新設

2007年からスタートした就労移行支援事業ですが、初年度4名、2年目も4名の方が就職を果たし、15名定員の事業で就職率53%という成果を挙げる事が出来ました。しかし、事業開始3年度目の2009年度は就職者1名というように就職実績にかげりが見え始めています。その為、従来の就労支援に加えて更なる工夫が必要となってきました。その取り組みとして、支援課（旧総務課）に就労移行支援を専門に担当する「就労移行支援係」が設置されました。その事によって、今までは作業活動の合間を縫って就職に向けた訓練が行われてきましたが、これからは作業活動にとられず、必要な時に必要な内容の支援を実施できる体制が整えられたと言えます。

さて、就労移行支援係が発足して1カ月あまりが経ちました。就労移行支援は基本2年間という利用期限があり、利用者の方々はその残された期間の中で一般就労に結びつくように日々努力を続けています。その為、支援部署が変わる事による時間のロスがあつてはならないので、支援の継続性を重視して取り組み、面接練習や実習同行など必要な支援を行っております。ただ、それだけでは新しく就労移行支援係が設置された意味がないので、今後はそれぞれの方の特性や新たな可能性に着目した就労支援を組み立て、実施していく様、取り組んでいきたいと思っております。

青葉ワークセンター

支援課支援係係長 島田 豊

職能開発室

東京大学READ研究室に、
在宅雇用で3名就職へ

この夏、職能開発室の技術者講習で学んだ修了生を中心に、3名が東京大学READプロジェクトに在宅勤務で就職を果たしました。皆さん障害者手帳でいうところの1種1級

の方々です。

今年2月に当プロジェクトの先生方から求人のご相談を受け、3月に面接、4月に打ちあわせを実施。続く3カ月の準備期間に、在宅メンバーはプロジェクトのWEBリニューアルを見事に仕上げました。大まかなイメージづくりから実際の制作、仕上げまでの全過程は、大学スタッフおよび私も教育スタッフも必要に応じて参画し、オンラインで進められました。その間に、よい形でコミュニケーションも醸成され、8月には在宅雇用が正式に決定。猛暑も吹っ飛ば嬉しいニュースとなりました。

ところで、「READプロジェクト」って皆さんご存じでしょうか？

これは、松井彰彦先生（注1）が代表をつとめる東京大学大学院経済学研究科のプロジェクトで、「Research on Economy and Disability」の略。WEBの説明によると「総合社会科学としての社会・経済における障害の研究」という意だそう。

「経済学」と「障害」の組み合わせは、一昔前だとピンと来ない方もあるでしょう。ですが、昨今の「医学モデルから社会モデルへ」という

障害概念の転換を考えれば、障害のある人の状況を、従来の医療やりハビリテーションといった枠でなく、



<http://www2.e.u-tokyo.ac.jp/~read/jp/index.html>

社会や経済の中の現象として見つめることは、福祉の現場の人間としてとても妥当なことと思えます。社会活動を阻む真の要因を多方向で捉えなおすREADの研究情報は、在宅勤務者が作っている下記のサイトで、ぜひご覧下さい。

(注1) 松井彰彦氏
現在、朝日新聞の「論壇時評」の論壇委員を担当中。

職能開発室所長 堀込真理子

葛飾福祉工場

アジア2か国からの視察団が 福祉工場を訪問

現在、葛飾福祉工場は、大田福祉工場と共に2012年4月1日からの、東京都の民間化と新事業体系への移行に向けて、各種準備を進めています。葛飾では、すでに移行を終えた法人内の事業所や、東京コロニーも加盟する社団法人ゼンコロの会員法人である青森コロニー・長野コロニーの事業所にも足を延ばし、現場での問題や課題について、多くの示唆をいただいています。

こうした葛飾福祉工場ですが、最近とはみに視察の問い合わせが多く、アジアからの訪問が相次いでいます。昨年の9月17日(金)の午後3時から、中国から北京市総工会訪日団12名が、また9月30日(木)の午後2時半からは韓国の障害者福祉施設関係者15名が当工場を訪問しています。それ以外に国内の視察も数多くあります。

北京市総工会は、企業に勤める方々で組織された団体で、主に障害者の労働施策という面からの視察でした。また、韓国は、主に国内8市

の障害者福祉の担当者で組織された視察団で、いずれも、インターネット等で福祉工場という制度に関心をもたれ、他の障害者施設に比較して、一定の収益と共に高い賃金水準の実態や健康保険、厚生年金、労働災害保険の各種社会保険の適用の有無、また健康管理や生活相談への配慮など、細部に渡るものでした。各視察団とも約1時間の概要説明後に、金町工場の縫製現場を視察し、現場担当者も質問攻めに遭うというほど、熱心な視察ぶりでした。

一方、視察では、我が国の障害者施策の現行法である障害者自立支援



法は廃止が明言されていること、それに代わる総合福祉法制定に向けての論議が急ピッチであることを付言し、現行法は2012年3月までは法として生きているため、その過渡期の移行作業であることを話し、現行水準を維持するための従業員の理解と協力が不可欠なこと、さらに地域の障害者就労への貢献も最大の課題として、率直な意見交換をしています。視察者からは「今回学んだ障害者就労支援のシステムをぜひ国に持ち帰り、参考にしたいと思う。移行後の新生福祉工場も見てみたい。」とのエールが送られました。掲載の写真は、北京市の視察団からの礼状と共に届いた写真のひとコマです。

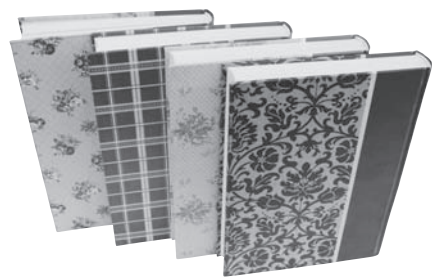
東京都葛飾福祉工場
所長 君島 久康

大田福祉工場

自家製品第一号の販売開始!

大田福祉工場は、お客様からの受注印刷物の製造が中心ですが、このたび初めて自家製品の製造・販売にチャレンジしました。

福祉工場は、2012年度の制度



移行・民間
化を控え、
いかにして
増収を図る
かが大きな
課題です。

行く行く
は異なる分
野へのチャ
レンジも視
野に入れた
ければな

りませんが、研究開発や設備投資に
投じる資金がない中で、まずは印刷
事業に軸足を置いて、『今持ってい
る設備と人材とノウハウで出来るこ
と』からやってみようというわけで、
取組み始めたのが自家製品の製造で
す。

自家製品第一号は、シルバー世代・
準シルバー世代の皆様のための日記
帳で、「銘日録（めいじつろく）」と
名づけました。

詳しくは、ぜひホームページをご
覧ください。ご自分用だけでなく、
若い方は、ご両親などへのプレゼン
トにいかがでしょうか！

さて、前向きにチャレンジした「銘
日録」、売れ行きは未知数で、費用
を回収できるか不安もあります。

しかし、一方で知恵を出し合っ

作る醍醐味や、一冊でも心底「あり
がとうございます！」と言える喜び
も味わっています。なによりも、お
客様に物を買って頂くためにどんな
配慮が必要かを考え、「販売」とは、
「商売」とはどんなものかを実体験
できていることは、大きな財産です。
福祉工場は就労継続支援A型事業
へ移行していくことになりますが、
A型であろうと福祉工場であらう
と、また民間会社であらうと、仕事
を請け、また製品を作ってお金を頂
く以上、その責任と目指すべき品質
にかわりはなく、商売の基本は同じ
です。

自家製品の製造販売を機会にもう
一度この大原則を肝に銘じて、事業
に取組んで行きたいと思っています。

東京都大田福祉工場
所長 磯貝 和子

福祉事業本部

グループホームでの 自衛消防訓練

ここ数年、各地の高齢・障害のグ
ループホーム・ケアホームの火災が
報じられ、障害福祉サービスのグ
ループホーム・ケアホーム（以下、

グループホームという）についても
消防法の適用が厳しくなり、各市区
町村の消防署による査察が行われ
ようになっていきます。

当法人の各グループホームの防火
設備としては、スプリンクラーは設
置基準外ですが、えはらハイツは自
動火災報知機が、東久留米第一、第
二、第三氷川台寮や国分寺戸倉寮は
セコムの子火災監視サービスが入っ
ています。

グループホームは地域でのふつう
のくらしを目指すものです。避難訓
練については、以前は『もしも火事
が起こったら？』と話し合ったり、
いざという時の避難出口や地域の避
難場所を確認したりという取組みで
したが、施設と同じように自衛消防
訓練も消防署立ち会いのもとに行う
機会も出てきました。

中野区江原町にあるグループホー
ム「えはらハイツ」でも、昨年8月
に消防署立会いの自衛消防訓練を行
いました。当日は消防車と共に野方
消防署の方が5名も見え、当方は昼
間の時間帯のため入居者の方はたま
たま休んでいた2名のみ、従業員も
集まったのは5名でした。でも、消
防署の職員の方は、「こんなにたく
さん集まっていたいてありがたう
ございます。グループホームは夜の

宿直は1〜2名でしようから、その
体制で訓練してみましよう。」と言っ
て下さり、少人数体制のグループ
ホームの特性をよく理解して下さっ
ていることに心強く思いました。

自動火災報知機の音が鳴り、一階
の宿直担当者が2階に「火事だ〜」
と大声で叫びながら駆け上がり初期
消火。その後2階の宿直担当者とし
緒に入居者の避難誘導・介助を行
いました。訓練後に「通報の時にグ
ループホーム名を必ず言う」、「各部
屋は確認後扉を閉めていく」他何点
か注意をいただきました。また、9
月には入居者の皆さんが帰寮した夕
方の時間帯で自衛消防訓練を実施
しました。東久留米や国分寺のグ
ループホームでも同様な訓練を行っ
ています。

新年にあたり、火事は絶対に起こ
してはいけないという思いを新た
に、今年も各グループホームで日頃
の話し合いと自衛消防訓練を実施し
ていきたいと思います。

福祉事業本部長 加藤留美子



法人の主な動きから

評議員・理事・監事・第三者委員の選任

2010年11月27日に開催された第六十回評議員会及び第232回（10月27日開催）・233回（11月28日開催）理事会において、2010年11月28日から二年間の任期で、新たな評議員・理事・監事・第三者委員が選任されました。

引き続き東京コロニーの事業に対するご理解と暖かいご支援をお願い申し上げます。

※ 今期をもちまして、比留間ちづ子評議員兼第三者委員、松井保彦評議員、三友敬太評議員兼第三者委員におかれましては任期満了につき、退任されました。永きに亘り、ありがとうございました。（事務局）

理事・評議員	勝又 和夫		評 議 員	朝日 雅也(新任)	(県立大学教授)
理事・評議員	高山 真三	(元東京都議会議員)	評 議 員	小玉 剛(新任)	(歯科医師・介護保険審査委員会委員)
理事・評議員	木村 良二	(大手電気グループ会社 統括コーディネーター)	評 議 員	中川 理(新任)	(福祉保育専門学校 講師)
理事・評議員	武者 明彦	(社会就労事業本部長)	監 事	矢倉 久泰(新任)	(元大手新聞社 論説委員)
理事・評議員	鬼頭 克介	(IT事業本部長)	監 事	加藤 一志	(公認会計士)
理事・評議員	君島 久康	(福祉工場事業本部長)	苦情解決 第三者委員	朝日 雅也	
評 議 員	岸本 美恵子	(足立区肢体不自由児者 父母の会顧問)	苦情解決 第三者委員	矢倉 久泰(新任)	
評 議 員	山根 伸右	(弁護士)	苦情解決 第三者委員	中川 理(新任)	
評 議 員	柿沼 一彦	(元東村山市社会福祉協議 会事務局長)	理 事 長	勝又 和夫	
評 議 員	外川 勝久	(利用者家族代表・開発 設計コンサル会社理事)	専 務 理 事	君島 久康	
評 議 員	秋田 実	(大手商社環境・CSR推進 室長)	常 務 理 事	武者 明彦	
評 議 員	飯屋 暢聡	(医師)			
評 議 員	中村 敏彦	(社会就労事業本部 副本部長)			

(敬称略)

「第22回アートビリティ大賞式典」が開催されました

アートビリティでは、企業・団体・労働組合及び関係者の皆様のご協力で、年に一度、その年に一番活躍されたアーティストを表彰しています。



ご出席者へお配りしていた手作り名刺が大好評！
アートビリティ大賞受賞の岡村陸矢さん。



アサヒビール奨励賞の表彰で、表彰状を受け取る戸荻宏二さん。

アサヒビール株式会社様のご協賛によって、将来が囑望される新進気鋭のアーティストに贈られる「アサヒビール奨励賞」、日立キャピタル株式会社様のご協賛によっ

て、独自の路線を歩み、アートビリティや障害者アートへの貢献度の高かった作家に贈られる「日立キャピタル特別賞」、そして、その年に最も活躍をされ、アートビ

リティの顔となるべき作家に贈られる「アートビリティ大賞」の各賞受賞三名の作家が、アートビリティ大賞選考委員会において厳正に選定されます。

今年度の受賞作家を表彰する「第22回アートビリティ大賞式典」は、11月12日（金）、日本財団ビル1階フロアーにて開催され、日頃お世話になっているユーザーの

皆様を初め、作家や応援団など関係者の方々が大勢お祝いに駆けつけてくれました。

アートビリティ大賞および各賞受賞作家の表彰式の後には、ご出席いただいたユーザー様と作家の交流をかねた立食パーティを開催し、年に一度のこの機会を皆さんに楽しんでいただきました。各賞受賞作家の皆さんは、次のとおりです。

アートビリティ大賞

（副賞金10万円）

岡村 陸矢さん

アサヒビール奨励賞

（副賞100枚のポストカード）

戸荻 宏二さん

日立キャピタル特別賞

（副賞100枚のポストカード）

大隅 敏雄さん

あらためて、受賞作家の皆さん、おめでとうございます！

アートビリティ事務局

岡嶋 明美

「障害者ワークフェア 2010」に出展、大盛況！

昨年10月15日（金）・16日（土）の二日間にわたり「障害者ワークフェア2010」（会場：横浜アリーナ、主催：独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構ほか）が開催され、就労支援機関や企業など約150団体が出展し、障害のある

人やそのご家族など多くの方が集まりました。

東京コロニーのブース出展は今回で4年連続。他の出展者の中にも馴染みの顔ぶれがちらほらと見られます。そんな中で、「学ぶ」から「働く」まで一貫して在宅就労支援の先駆的役割を担ってきた機関として、相談業務やPRをはじめ、他の出展者との意見交換や情報収集に努めました。あらかじめ私たちの出展を知ったうえで訪ねてきた方も例年以上に多く、「在宅就労



といえは東京コロニー」というパイオニアの知名度も定着してきた感がありました。今回のワークフェアは、例年以上の来場者数を記録したといえます。会場の利便性もありますが、この分野にかかわる人たちが関心のある人たちの総数が拡大したことの表れであるといえます。当ブースにおい



ても「在宅で学ぶ」「在宅で働く」の大きな活字のパネルを目にし、足をとめて相談を求めてくる方々が印象に残りました。

特に在宅雇用については、昨年7月の法改正により、法定雇用義務のある事業主が増加したこともあって、より多くの事業主がその可能性を前向きに考えていくものと思われまます。同時にS O H Oや教育など、雇用と密接な支援事業

にも一層のニーズが高まることを実感しました。

実は注視すべきことがもうひとつ。会場では、「第32回全国障害者技能競技大会（アビリンピック）」が同時開催されていました。この大会には毎年、職能開発室の教育事業の現役受講生や修了生などが競技に参加し、好成績をおさめているのです。彼らの積極的な姿勢や、応援しているご家族、職場の同僚などの姿を目にし、今回もまた多くの活力をもらった気持ちになりながら、あつという間の2日間を終え、会場を後にしました。

職能開発室 吉田岳史

個人情報の取り扱いについて

本誌における個人情報は、当法人の「個人情報保護方針」に基づいて取り扱います。（個人情報の保護に関する方針は東京コロニーのホームページでご覧いただけます）。

アートビリティ Artbility ギャラリー 25

『ふくろう』 戸荻 宏二 さん



今回は、戸荻宏二さんをご紹介します。

戸荻さんは、アートビリティが協力をする障害のある子どものアートコンクール「キラキラッとアートコンクール」で、第1回から6回まですべて優秀賞を受賞し、その後、アートビリティ審査会を経て2009年11月に登録作家となりました。

そして、今年度のアートビリティ大賞では、新人賞にあたる「アサヒビール奨励賞」を見事受賞しました。

キラキラッとアートコンクールの常連だった頃からの戸荻さんを知る者として、今回の受賞はたいへん感慨深いものがあります。少しずつ成長を遂げていった戸荻さんをリアルタイムで見えてきたからです。

昨年、戸荻さんは、地元の豊橋市にある「こども未来館」で作品展を開催しました。多くのメディアに紹介され、大好評を博したこの作品展の最中、インタビューに応えた戸荻さんのお母様の談話が新聞に紹介されていました。その中で、お母様はこんなふうにおっしゃっていました。

「障害者の絵を企業などに有料で貸し出し、障害者の収入にあてる『アートビリティ』という団体があることを最近になって知りました。それに作品が登録されるくらいのプロになれば…。それが夢であり目標です」

キラキラッとアートコンクールから飛び出し、アートビリティの作家となった子どもたちはすでに戸荻さんで11人となります。次世代の才能を発掘し、応援したいという思いで協力を始めたこのコンクールですが、着実に成果が表れていることをうれしく思います。

今年のアートビリティ大賞を受賞した岡村陸矢さんもキラキラ出身です。

これからも岡村さんと戸荻さんに続くすばらしい才能を、アートビリティは応援し続けていきたいと思っています。

アートビリティ事務局 岡嶋 明美

■アートビリティ…1986年障害者アートバンクとして設立。「才能に障害はない。アートの分野において、障害者の才能は健常者とかかわらない」を基本姿勢に活動を続けています。現在は、登録作家約400名、登録作品数約3,800点、年間使用作品数は400点を超えます。2002年4月、アートビリティと改称。

ご協力の お願い

社会福祉法人東京コロニーでは、障害のある方への支援を就労や教育、生活の面から数多くの事業を行なっています。めざすことは、それらによる障害者の大きな意味での自立支援です。

私共の事業を応援して下さる方（あるいは団体）からのご協力を、下記を窓口で常時受け付けております。ご寄附の場合は、主に新しい事業の立ち上げや先進的な取組みを行うための財源に充当させていただきます。より多くの方へのより質の高いサービスをめざす当法人の事業に対し、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

（社会福祉法人への寄附は、税金が一部免除になります。ご寄附をいただいた際はそのための領収書を発行させていただきます。）

ご寄附受付 社会福祉法人東京コロニー 法人本部事務局
〒165-0023 東京都中野区江原町 2-6-7 tel03-3952-6166 fax03-3952-6664

東京コロニーの ホームページ



東京コロニー メインページ
<http://www.tocolo.or.jp/>



コロニー印刷
<http://www.colony.gr.jp/>



デジタル メディアセンター
<http://www.dmc-net.jp/>



アートビリティ
<http://www.artbility.com/index.html>



東京都大田福祉工場
<http://www.tocolo.or.jp/oota/>



トーコロ情報処理センター職能開発室
<http://www.tocolo.or.jp/syokunou/>



トーコロ青葉ワークセンター
<http://www.tocolo.or.jp/aoba/>



東京都葛飾福祉工場
<http://www.fireman21.net/>



トーコロ情報処理センター事業部
<http://www.tocolo.or.jp/joho/>



トーコロ生活支援センター
<http://www.tocolo.or.jp/seikatu/index.html>



グループホーム／ケアホーム
<http://www.tocolo.or.jp/grouphome/index.html>